

分野: Testing, Curriculum

大学入試センター試験リスニングテストの波及効果 ー茨城大学入学者の英語学習と大学英語カリキュラム改革への影響ー

Washback Effect of the National Center Listening Test
on English Learning and Curricular Innovation at Ibaraki University

斉田 智里 (茨城大学)

1. 目 的

高等学校では平成15年度から年次進行で現行の学習指導要領(「実践的コミュニケーション能力の育成」が外国語科の目標)が施行され、新課程学習者が初めて高校を卒業する平成18年の1月に、第1回の大学入試センター試験英語リスニングテストが実施された。リスニングテスト受験世代が大学に入学するようになったのは平成18年度入学者からである。

茨城大学では、中高で培われた実践的コミュニケーション能力をさらに伸ばすことを目標とした新たな英語カリキュラム「総合英語プログラム」を、平成17年度から全入学者に実施している。新カリキュラムでは、習熟度別授業を行うために、入学後に新1年生を対象にプレイスメントテストを実施しているが、リスニングの平均点が、平成18年度入学者以降、年々上昇していることが明らかとなっている。入学後の英語学習アンケートでも、リスニング力を一層伸ばしたいという学生の割合が増えてきている。センター試験リスニングテスト導入の効果といえるかもしれない。こうした新たな世代の入学者に対応し、高大接続教育を重視した英語カリキュラムの改善を行っている。

大学入試センター試験はhigh-stakesなテストであり、リスニングテスト導入による波及効果を、様々な角度から検証していくことは重要な営みであろう。本稿は、茨城大学入学者の英語学習におけるリスニングテストの波及効果の検証を試みた事例研究である。具体的には、大学入試センター試験にリスニングテストがあることで、英語学習方法や英語学習への意欲や態度等にどのような影響があったのかを質問紙調査により明らかにし、大学の英語教育改善に活かすことを目的とした。

2. 方 法

予備調査として、茨城大学入学者がセンターリスニングテストの影響をどのように自覚しているかを、項目別に自由に記述してもらった。予備調査は平成20年6月に100名程度を対象に紙面上で行われた。予備調査の結果をもとに、多肢選択式及び記述式の全23項目の本調査項目を作成した。本調査は、webによる調査とし、茨城大学全学生を対象に、平成20年8月から10月にかけて実施された。

本稿では、平成20年度入学者1110名の回答を抽出し、分析した結果を報告する。茨城大学の平成20年度入学者は1688名であり、回収率は66%であったといえる。回答者のうち実際にリスニングテストを受けた学生の割合は80.4%で、これは平成20年度全入学者の受験割合とほぼ同じである。

調査結果を集計する際、リスニング力の違いにより回答パターンに差異がないかについても調べるために、入学後に実施されたプレイスメントテストのリスニング得点により、「平均点+0.5×標準偏差以上」を上位層、「平均点-0.5×標準偏差以下」を下位層、残りを中位層と3群に分け、集計結果の χ^2 検定を行った。上位層290名(26%)、中位層424名(39%)、下位層386名(35%)であった。平成20年度実施のプレイスメントテストリスニング得点と平成20年度実施大学入試センター試験リスニング得点との相関係数は、0.47(α .01)であった。

9月5日(土) 11:20-12:20 TEST 1 D50

分野: Testing, Curriculum

3. 結果

1) リスニングテスト対策

「リスニングテスト対策は高校の授業中に行われたか?」との質問には、96.3%が「授業中に対策が行われた」と回答した。対策開始時期については、「高校3年生」が41%と最も多く、「高校1年生」が24.2%、「高校2年生」が20.8%であった。頻度は、「ほぼ毎回の英語授業で10分から20分」が26.5%と最も多く、「週1回10分から20分」が25.6%、「週2回10分から20分」が0.6%で、高等学校ではセンターリスニングテストを意識した対策が比較的早い時期から定期的に行われていたことがわかる。「高校の授業外でもリスニング対策を行ったか?」という質問については、「行った」が49.4%とほぼ半数であった。具体的には、自宅で教材付属のCDを聞いた(22.6%)、リスニングの問題集を買って解いた(14.7%)、予備校などのリスニング講座を受講した(13.7%)などが多く、ラジオやテレビの英語番組を聞いた(5.7%)や英会話スクールへ通った(2.5%)等の割合は低かった。

2) リスニング力の伸びの実感

「高校での学習でリスニング力は伸びたと思うか?」との質問には、「少し伸びた」と「大いに伸びた」を合わせると67%の学生が伸びを実感していたことがわかった。「高校3年間でリスニングが得意になったか」という質問については、42.4%が「ずっと得意」又は「少し得意になった」と回答し、リスニングに好感をもっていることがわかる。リスニング成績によって有意さが見られた。

3) 英語学習方法への影響

「あった」45.5%、「なかった」22.0%、「わからない」32.5%であった。教材付属のCDをよく聞くようになった(19.5%)、スクリプトを確認するようになった(14.7%)、発音を気にするようになった(12.7%)、音読に力を入れるようになった(10.8%)、CD付の教材を選ぶようにした(9.0%)、細部より大意を把握するようになった(8.9%)、強く読まれる部分を意識するようになった(7.8%)等。

4) 英語学習の態度や意欲への影響

プラスの影響が「あった」31.0%「なかった」34.4%「わからない」34.6%であった。積極的に英語を聞くようになった(14.1%)、英語の学習におけるリスニングの重要性を意識するようになった(8.5%)、英語に対する興味が増した(7.6%)、英語の授業がおもしろくなった(5.7%)、積極的に英語を使おうという気持ちになった(4.9%)、英語の学習に時間をかけるようになった(4.3%)、海外で勉強をしたいと思うようになった(4.3%)と続く。逆に、「マイナスの影響があったか?」については、「あった」23.7%「なかった」49.6%「わからない」26.6%であった。リスニングに苦手意識をもっている学生がずっと不安を持ち続けていたり、英語学習量の増大に負担感が増したり、ますます英語が嫌いになったりというマイナスの影響が見られた。リスニング成績による有意さが見られた。

5) 大学の英語学習に与えている影響

「リスニングテスト対策は大学の英語学習に役に立っているか?」との質問については、「役に立っている」16.6%「役に立っていない」25.2%「わからない」58.2%であった。具体的には、「大学の英語授業が聞き取れる」「英語学習に積極的になれる」等の回答が多かった。

謝 辞

本研究は平成20年度茨城大学学長政策経費配分(研究代表者: 斉田智里)により行われた。質問項目作成については西尾由里先生、web調査については竹内俊彦先生にご助言ご協力をいただいた。